大会企画シンポジウム

子どもを成長させるコミュニティ・アプローチについて考える

シンポジスト　林克洋（NPO 法人栃木県防災士会）
シンポジスト　大貫若菜（横須賀市、茅ヶ崎市スクールソーシャルワーカー）
シンポジスト　牧裕夫（作新学院大学）
コメンテーター　小澤美代子（さくら教育研究所）
コメンテーター　狐塚貴博（作新学院大学）
企画・司会　小栗貴弘（作新学院大学女子短期大学部）

企画趣旨

心理臨床における成長モデルの発想では、人がライフサイクルで避けがたく直面化する葛藤を発達課題としており、G.Caplan の「危機理論」も人の成長・発達に方向付けられている。

ときには命の危険にもつながる「危機」。それを経験した子どもたちに、軽々しく「成長の糧に」などと言うことははばかられる。しかし、本シンポジウムでは、あえてそこに成長への可能性を検討したい。

シンポジストとして、未曽有の大災害となった東日本大震災で被災地支援をされた林克洋先生（防災士会）、学校現場で子どもの危機に対応されている大貫若菜先生（SSW）、徳島で担当していた子どものケースで大震災の影響を体感した牧裕夫先生（作新学院大学）に、それぞれの臨床現場での実践についてご紹介していただく。

その上で、コメンテーターとして、さくら教育研究所の小澤美代子先生、本学人間学部の狐塚貴博先生に、子どもの成長へつながる介入といった視点から議論を広げていただき、それぞれの実践が子どもの成長においてどのような意味があったのか、コミュニティ心理学的に考えたい。

林克洋（NPO 法人栃木県防災士会）

防災士としてまた、災害医療チームのメンバーとして被災地域に関わる事が増えている。大規模な災害に見舞われた時に子供たちの心に寄り添う事が重要であるが、「被災者、可愛そう。何とかしてあげなきゃ」と言う事だけで良いのだろうか。 現実を受け止める事も大切であると思う。例えば、子供の年齢に見合った仕事を与え、仕事を通して地域の皆が被災者であり、ともに力を出し合って元の生活に戻るように努力する事を、一緒になり活動する事も大切であると思う。

大貫若菜（横須賀市、茅ヶ崎市スクールソーシャルワーカー）

スクールソーシャルワーカー(SSW)が関わる『子どもの危機』に関する案件は多方面にわたる。学校現場で見える現象は『危機』を感じるものから全くうかがわせないものまであるが、SSW は常にその可能性を念頭に介入する。SSW は「子どもの環境面に介入して課題解決に向かわせる」職である。しかし、すぐには解決へ向かわせることのできないケースが多く、常日頃からジレンマを抱えながら勤務している。

本報告では、学校現場における事例についてケースワークの視点から紹介し、会場の皆さまと議論しながら今後の活動に活かしていきたい。

牧裕夫（作新学院大学）

東日本大震災では東北から 1,000km 位離れた地にいた。その時期、小学校２年で落ち着きがない A と、３年で複雑性チックと診断されていた B のプレイを行っていた。震災後プレイの内容が変わっていく。箱庭制作が中心となり、A は自営隊を慰労、孤島に一人の自分に仲間が訪れる。B の場合砂に埋める、押しつぶす等のテーマを繰り返し、それぞれの課題が作業されていった。震災の中プレイが進展したという発表は不謹慎かと思えていたが、本学で狐塚貴博先生に出会った。PTG（Post Traumatic Growth)といった取り組みを東北大学チームの一人として活動されていたという。この２例もそれにあたるのではないかと考え、PTG という視点から会場の皆さまと討論したい。

基調講演

学校危機への予防と支援
～学校コミュニティの力を生かす/育むさまざまなアプローチ～

窪田　由紀（名古屋大学大学院教育発達科学研究科）

災害、事件・事故などに遭遇した学校の危機対応への支援体制は、2000 年初頭から全国的に徐々に整ってきた。一方学校現場での社会的スキル訓練、ストレス・マネジメント教育等の心理教育への関心は高く、熱心に取り組む教師や心理学研究者、スクールカウンセラーも少なくない。しかしながら、両者が一体的・統合的に実施されることは稀で、学校全体での継続的な展開例も決して多いとは言えない。

本講では、ある小学校で児童間トラブルを契機に生じた学校危機への事後対応からスタートした支援が、その過程で明らかになった児童間トラブルの背景要因＜児童の特性＞を対象にした心理教育の学校全体での継続的実施に繋がり、さらにモデル校での試行実施を経て市全体の取り組みに広がった市の事例を通して、学校コミュニティの力を生かす/育むさまざまなアプローチについて考える機会としたい。

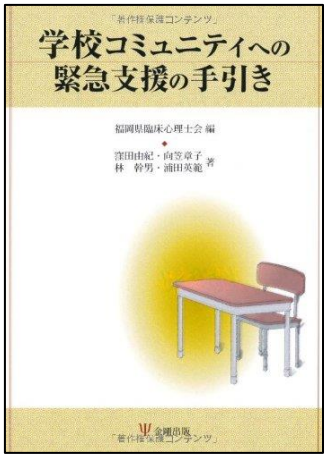
【講師プロフィール】

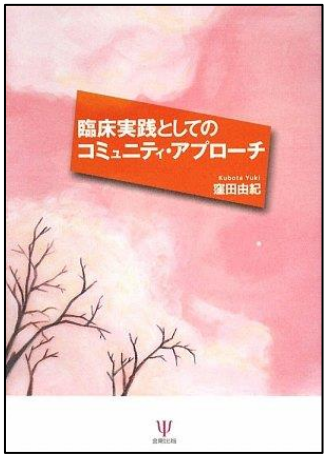
専門　臨床コミュニティ心理学

現職　名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授

略歴　九州大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得後満期退学
北九州市立デイケアセンター臨床心理士、九州国際大学教員兼学生相談室主任、九州産業大学教員を経て 2011 年 10 月から現職。

主著　学校における自殺予防教育のすすめ方　2016　編著　遠見書房
学校コミュニティへの緊急支援の手引き　2005　共著　金剛出版
臨床実践としてのコミュニティ・アプローチ　2009　単著　金剛出版





自主シンポジウム

1 日目　6 月25 日（土）　15:15～17:15　2302 教室

これからのコミュニティ介入における「ライフリソース」再考：「社会正義」の文脈における効果的なプログラム構築と評価の課題

司会・話題提供	笹尾 敏明	国際基督教大学 国立オポーレ大学（ポーランド）
話題提供	八田 直紀	国際基督教大学大学院 日本学術振興会特別研究員 DC
話題提供	榊原 佐和子	明治学院大学心理学部
指定討論	玉井 航太	北海商科大学

＜企画趣旨＞

コミュニティ心理学的アプローチによる様々な予防介入プログラムが、学校現場、企業組織、医療現場、災害地域等にて実施され、評価もなされてきた。しかしながら、介入プログラムは、具体的な社会問題（例いじめ、学級崩壊、外国人児童、女性蔑視、医療ミス）を対象としてきたものの、従来の臨床心理学における個人問題焦点型モデルが主流であり、コミュニティ心理学の中枢概念である「社会正義」を成就させるアプローチは希少である。

本シンポジウムの目的は、社会正義の立場から、個人や集団の well-being に寄与する「ライフリソース」モデルについて議論することにより、各現場における介入プログラムのビジョン、目的、目指すべき結果などの再考を試みることである。具体的には、在住外国人コミュニティ、学生アスリートコミュニティ、災害地域コミュニティ、企業組織コミュニティ等における「ライフリソース」モデルについて検討し、持続可能性のある介入プログラムの構築と評価の課題について、フロアとの積極的な意見交換を行う。

ラウンドテーブル

1 日目　6 月25 日（土）　10:00～12:00　2302 教室

大学における発達障害学生支援
～コミュニティ心理学的視点での支援とは～

話題提供	岩崎　草千子	東京都市大学DOL 支援プロジェクト
話題提供	林　敦子	尚美学園大学カウンセリングルーム
司会・話題提供	榊原　佐和子	明治学院大学心理学部

＜企画趣旨＞

2016 年 4 月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が施行された。近年、こうした発達障害を巡る法的、そして DSM－５での発達障害の分類変更などの医学的状況の変化を受け、制度としての大学における発達障害学生への支援が本格的に始まったと言えよう。現場レベルではこれまでも、発達障害を抱える、あるいはその疑いのある学生の支援がカウンセラーや教職員によって行われてきており、教職員・カウンセラー・保護者等の有機的な連携も始まっている（以上、丹治・野呂、2014）。

しかしながら、障害学生支援に関する専門委員会や専門部署・機関の設置率は低く（日本学生支援機構、2015a）、授業支援実施校は増加しているものの、授業以外の支援に比べて低いことからも（同、2015b）、今後は支援体制の確立や支援の質の充実が求められている。本ラウンドテーブルでは、長らく学生相談に関わり今年から発達障害学生支援室を立ち上げた大学、そして数年前から支援プロジェクトを始めた大学のカウンセラーが現場での支援体制、課題について話題提供し、そのコミュニティ心理学的意義を考察し、かつ参加者のみなさまとの活発な意見・情報交換をしたい。

引用文献

- 日本学生支援機構（2015a）平成 26 年度（2014 年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の就学支援に関する実態調査結果報告書.
- 日本学生支援機構（2015b）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の就学支援に関する実態調査分析報告（対象年度：平成 17 年度～平成 25 年度）.
- 丹治敬之・野呂文行（2014）我が国の発達障害学生支援における支援方法および支援体制に関する現状と課題．障害科学研究 38，147-161.

自主ワークショップ1

1 日目　6 月25 日（土）　10:00～12:00　2304教室

若手・中堅心理士が考えるコミュニティアプローチ

企画・話題提供	岡　桃子	立教大学
話題提供	久野光雄	宮原メンタルクリニック
話題提供	小栗香奈子	栃木県立真岡女子高等学校
話題提供	須賀田真理	港区子ども家庭支援部子ども家庭課
話題提供	山本耕太	富士見乳児院
司会・企画	米山祐子	三鷹市子ども家庭支援センター

＜企画趣旨＞

本ワークショップでは、現場経験 15 年以内の若手・中堅を対象に、コミュニティ心理学の視点に基づいた事例検討を実施します。事例検討を通して、日頃考えていることや感じていることを話し合い、若手・中堅の相互交流の機会としましょう。コミュニティ心理学的実践に取り組む仲間づくりのきっかけとしてご活用ください。

＜ワークショップ概要＞

話題提供者が用意した架空事例をグループで検討していただきます。

事例検討を通し、皆さんのコミュニティ心理学的実践、コミュニティ心理学的実践のためのアセスメントのポイント、実践の際の様々な工夫、経験談などを共有できればと考えています。

また、コミュニティ心理学の視点に基づく事例検討の在り方について考える機会となることを期待しています。

自主ワークショップ２

2 日目　6 月26 日（日）　13:15～15:15　2304教室

医療・産業・教育領域におけるコンサルテーションの実際：コンサルテーションデモンストレーションを用いた検討（その２）

企画・司会	榊原佐和子	明治学院大学心理学部
話題提供	上田将史	亀田総合病院
話題提供	大林裕司	一般社団法人心理支援ネットワーク心 PLUS
話題提供	郷百合野	上智大学学生局カウンセリングセンター
話題提供	大橋智	明星大学人文学部心理学科
指定討論	玉澤知恵美	一般社団法人心理支援ネットワーク心 PLUS

＜企画趣旨＞

近年、様々な領域の心理支援の実践 において、コンサルテーションが重視されてきている。その共通点としては、クライエント（システム）支援のために、複数の支援者が連携していくという枠組みはあるものの、各領域に特有の状況・文脈があり、実践において重視・工夫している点にも、少なからず違いがある。そこで本ワークショップでは、多様な領域の中から、コンサルテーションの主たる実践領域と思われる教育・医療・産業の各領域における実践家によるコンサルテーションデモンストレーションを行い、その内容を参加者とともに振り返りながら、コンサルテーションにおいて工夫しているポイントなどを明らかにし、併せて、領域毎のコンサルテーションの異同についても検討する。本年度は、よくある典型ケースの一つである動機付けの薄いコンサルティのケースでデモンストレーションを行う予定である。

本ワークショップを通して、実践の中での有効なコンサルテーションの在り方を探っていく第一歩にできればと考えている。

＜口頭発表＞

口頭発表 A　1 日目　6 月 25 日（土）　15:15～16:45　2203 教室

座長：安田 節之（法政大学）

OA-1　「市民カウンセラー養成講座」の実施（４）

―プログラムを通じた PERMA-Profiler 日本語版の変化―

山上 史野　　金沢工業大学心理科学研究所
塩谷 亨　　金沢工業大学心理科学研究所
松本 圭　　金沢工業大学心理科学研究所
松本 かおり　　金沢工業大学心理科学研究所
大矢 寿美子　　金沢工業大学心理科学研究所

OA-2　コミュニティ感覚と主観的幸福感（Well-being）との関係

―「市民カウンセラー講座」応募者のデータからの仮説の提起―

塩谷 亨　　金沢工業大学心理科学研究所
山上 史野　　金沢工業大学心理科学研究所
松本 圭　　金沢工業大学心理科学研究所
松本 かおり　　金沢工業大学心理科学研究所
大矢 寿美子　　金沢工業大学心理科学研究所

OA-3　グループセミナー活動の発展的要因についての考察

－グループセミナー定着に向けての工夫－

北島 歩美　　日本女子大学カウンセリングセンター
今村 理洋　　日本女子大学カウンセリングセンター
橋本 望　　日本女子大学カウンセリングセンター
熊谷 敦子　　日本女子大学カウンセリングセンター
安藤 由紀子　　日本女子大学カウンセリングセンター

口頭発表 B　1 日目　6 月 25 日（土）　15:15～16:45　2204 教室

座長：箕口 雅博（一般社団法人心理支援ネットワーク心 PLUS）

OB-1　地域における子どもの SOS 発見と支援の実態：事例を通した検討

吉永 真理　昭和薬科大学臨床心理学研究室

重根 美香　（一社）子ども安全まちづくりパートナーズ

OB-2　児童養護施設における外部資源の活用

－就労体験を軸にした外部団体との支援ネットワークの構築－

西山 達二　京都府社会福祉事業団桃山学園

浦川 紀子　京都府社会福祉事業団桃山学園

OB-3　里親等委託推進のための地域基盤づくりのモデル構築に向けた

アクションリサーチ

竹森 元彦　香川大学教育学研究科

口頭発表 C　2 日目　6 月 26 日（日）　13:15～15:30　2203 教室

座長：石盛 真徳（追手門大学）

OC-1　心理援助サービス提供者対象のニーズアセスメント研修プログラムの評価

～ロジックモデルの作成～

大川 達也　宮原メンタルクリニック

上江 昇一　NPO 法人星槎教育研究所

久野 光雄　宮原メンタルクリニック

村上 武　宮原メンタルクリニック

竹内 ゆり　西武文理大学

石井 寛　立教大学大学院現代心理学研究科

OC-2　経験の浅い心理援助サービス提供者へのニーズアセスメント研修効果評価
～ロジックモデルに基づくアウトカム評価～

久野 光雄　宮原メンタルクリニック
上江 昇一　NPO 法人星槎教育研究所
村上 武　宮原メンタルクリニック
大川 達也　宮原メンタルクリニック
竹内 ゆり　西武文理大学
石井 寛　立教大学大学院現代心理学研究科

OC-3　新入学時のスクリーニングテストにおける
カットオフポイントの有効性の検討－主として連携との関連から－

酒井 渉　富山大学・名古屋大学
野口 裕之　名古屋大学
森田 美弥子　名古屋大学
鈴木 健一　名古屋大学
立瀬 剛志　富山大学
松井 三枝　富山大学

OC-4　学生アスリートの well-being 促進に向けた介入プログラム開発の試み
―概要およびニーズ・アセスメントを中心に―

八田 直紀　国際基督教大学大学院
日本学術振興会特別研究員 DC
笹尾 敏明　国際基督教大学

OC-5　コミュニティの中で育つ対人援助職者
「東日本・家族応援プロジェクト」５年を振り返って

村本 邦子　立命館大学

＜ポスター発表＞

ポスター発表 1　1 日目　6 月 25 日（土）　15:15～17:15　2201 教室

在席責任時間：PA-1～5　15:15～16:15　　PA-6～10　16:15～17:15

PA-1　マインドフルネスが高齢者の Well-being に及ぼす影響
　　－　社会的接触（互助）とセルフヘルプ（自助）の検討
　　高橋　美保　　東京大学
　　馬場　絢子　　東京大学

PA-2　過去のいじめられ経験が現在の友人との心理的距離に及ぼす影響
　　―ソーシャル・サポート体験に着目して―
　　丸山　華子　　昭和女子大学大学院　生活機構研究科心理学専攻
　　田中奈緒子　　昭和女子大学

PA-3　地域と学校における思春期・青年期の子育て支援に関する探索的調査研究
　　澤　聡一　　北翔大学

PA-4　若者ゲートキーパーの活動に対するセルフケアモデル作成の試み
　　石井寛　　特定非営利活動法人 Light Ring.
　　立教大学現代心理学研究科
　　須田一貫　　特定非営利活動法人 Light Ring.
　　山崎修道　　東京都医学総合研究所 こころの健康プロジェクト
　　石井綾華　　特定非営利活動法人 Light Ring.
　　作新学院大学　客員講師

PA-5　体育会応援団がもたらす大学への帰属意識と期待される効果
　　―立教大学の場合―
　　内山雅子　　立教大学大学院現代心理学研究科臨床心理学専攻

PA-6　親の養育態度に対する認知が子どもの学習意欲に及ぼす影響
　　辻　美咲　　立教大学大学院

PA-7　不登校の滞日日系ブラジル人児童生徒の親子関係
及び親子のニーズに関する質的分析

谷渕 真也　　比治山大学
高田 純　　香川大学保健管理センター

PA-8　大学生と教員との間で経験する対人ストレッサー
および授業雰囲気と精神的健康および学習意欲との関連

黒川貴弘　　比治山大学大学院
杉本　悠貴恵　　公益財団法人エイズ予防財団
藤井　あゆみ　　比治山大学大学院
桐原　成美　　比治山大学大学院
谷渕　真也　　比治山大学大学院

PA-9　ボランティア組織に対するニーズ尺度の作成（その 2）

杉本悠貴恵　　公益財団法人エイズ予防財団
黒川貴弘　　比治山大学大学院
藤井あゆみ　　比治山大学大学院
桐原成美　　比治山大学大学院
谷渕真也　　比治山大学大学院

PA-10　広島市亀山町における古民家再生の実践活動（１）
―「風景」からのコミュニティ・アイデンティティへのアプローチ―

源氏田憲一　　相模女子大学人間社会学部

ポスター発表 2　2 日目　6 月 26 日（日）　13:15～15:15　2201 教室

在席責任時間：PB-1～6　13:15～14:15　　PB-7～13　14:15～15:15

PB-1　多文化就労場面における日本人社員の異文化間コンフリクトと解決方略

田中　詩子　　お茶の水女子大学大学院博士後期課程
山中　弘子　　お茶の水女子大学グローバル教育センター
加賀美　常美代　お茶の水女子大学基幹研究院

PB-2　多文化就労場面における中国人元留学生の異文化間コンフリクトと解決方略

小松　翠　　お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所
黄　美蘭　　首都大学東京　国際センター
加賀美　常美代　お茶の水女子大学基幹研究院

PB-3　大学教員の発達障害特性を持つ学生との関わりと支援に関する意識調査

谷津　修一　　流通経済大学　学生相談室
西尾　美和子　　流通経済大学　学生相談室
小林　美寿々　　流通経済大学　学生相談室

PB-4　「リーダーとしての自信」向上を目的とした教育プログラムの改良効果
―大学のクラブ・サークルリーダー学生を対象にして―

横山　孝行　　東京工芸大学

PB-5　高齢者の傾聴ボランティア経験と自己成長に関する質的研究

目黒　達哉　　同朋大学　社会福祉学部

PB-6　小学生の学校適応感に関する調査
―小学生版学校適応感尺度の作成を中心として―

山口豊一　　跡見学園女子大学
下村麻衣　　跡見学園女子大学大学院
高橋美久　　跡見学園女子大学大学院

PB-7　大学生における学生相談に対する援助要請
－エンパワメントにつながる介入の検討－

安田　みどり　　立教大学

PB-8　心理的耐性の違いからみた大学コミュニティ

林 幸史　　大阪国際大学 人間科学部

PB-9　医療機関と教育機関の互恵的な臨床心理実習・研究の試み
～コミュニティの資源関係に着目して～

久保義郎　　田園調布学園大学
渡邉由己　　田園調布学園大学

PB-10　子どもの地域スポーツに関わる親が抱える問題
―母親対象のネガティブな体験に関するインタビューから―

藤後悦子　　東京未来大学
三好真人　　目白大学
井梅由美子　　東京未来大学
大橋　恵　　東京未来大学
川田裕次郎　　順天堂大学

PB-11　地域スポーツにおける子どものチームメイトのミスに対する保護者の反応
―シナリオ法によるスポーツ・ハラスメントの検討―

大橋　恵　　東京未来大学
井梅由美子　　東京未来大学
藤後悦子　　東京未来大学

PB-12　地域スポーツにおけるスポーツ・ハラスメントの要因と
チーム参加への満足度について

井梅由美子　　東京未来大学
藤後悦子　　東京未来大学
大橋　恵　　東京未来大学

PB-13　地域スポーツの指導者の直面している問題の把握–質的分析アプローチ–

川田裕次郎　　順天堂大学
大橋　恵　　東京未来大学
井梅由美子　　東京未来大学
西田敬志　　順天堂大学
藤後悦子　　東京未来大学